

荒船山

17日

秋日和とでもいうか。晴天無風、そして遠目では軍艦のように見える山はなだらかで、これが山日和とでもいうか。メンバーは男二人に対して女13名。以前はケッコウ美人だったかなあと思わせる人も何人かいた。かなり以前の口もいたけど、ついこの間までは男を悩ませたのではと言えるようなものもいた。私はこのような人に対して、むかしは美人であったということでムカビとあだ名をつけることにしている。前回登った小檜山は、楽勝のつもりで行ったら案外苦勞させられて、翌日の筋肉痛もひどかったが、今回は筋肉痛も無くジム通いを休むことも無かった。

ツアーリーダーは水村春代さんでサブは小田口のおじさん。二人とも初めて会う。

この山には1965年に登っている。まだ19歳であった。当時はワンダーフォーゲルというものが大流行の時代であった。山岳部は死ぬけれどワンゲルならば死ぬことはあるまいというところが人気の理由であったと思う。関東の各大学のワンゲルが集まって、関東合同ワンゲル大会が神津牧場に数百人集まって行われ、そのうちの1日が荒船山へのハイキングであった。夜には大規模なキャンプファイヤーが行われた。井桁状に薪が積み重ねられて、そこから遠くの山までワイヤーが張られて、種火がゆらゆら揺れながら井桁まで降りてきて、パッと燃え上がる。見事なものであった。わが青春の一コマである。あれから55年の歳月が流れたわけだ。



浅間山をバックに